

3月号 No. 149

社協だより

平成30年3月1日発行
社会福祉法人 三宅島社会福祉協議会

(東京都三宅島三宅村阿古 497)

TEL 04994-5-7051 (代表)

FAX 04994-5-7054

I P 5-3155



大盛況！ 福祉バザーを開催しました！

三宅島社協では、2月3日(土)午前10時より三宅村阿古体育館において福祉バザーを開催しました。当日は、雨も心配される寒い日となりましたが、オープン前から多くのお客様にお越しいただき、約150名のご来場となりました。

今年は、フリーマーケット方式ではなく「福祉バザー」として開催しましたが、年間を通して、島民の皆様からは大変多くの物品を提供していただきました。食器や雑貨、寝具、家具、家電など様々な商品を準備することができましたが、11時には大半が売れてしまい、予定時間より早く終了となりました。

売り上げの83,970円は、三宅島社協が行う島の福祉のために大切にに使わせていただきます。

Twitterはじめました！



みなさんフォローお願いします！

アカウント→@mjshakyo

三宅島社会福祉協議会



社協のホームページも公開しています！
是非ご覧ください。

地域活動支援センター

“いぶき”だより

【開所日時】月曜・水曜・木曜

10:00~15:00

【開所場所】坪田福祉会館内

【問い合わせ先】☎6-0294（開所時間内）

2月21~22日の2日間、センター内で創作品販売会を行いました。利用者の方々と購入された方々が会話するなど普段と違った“ふれあい”が、とても貴重な体験となりました。ご購入いただいた地域の皆様、ありがとうございました。次回の販売会は、5月を予定しております。

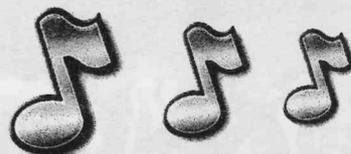
《3月の活動予定》

カラオケ 12日、26日

緑花日 7日、14日、19日、22日、28日

外出支援（買い物） 15日

弁当提供 5日、19日



☆ 活動サポートボランティア募集中！！

活動内容：緑花や創作活動サポートや昼食交流など

※詳細や参加希望の方は、事前に事務局（☎5-7051）までご連絡下さい。

【寄付のお願い】創作活動で使用する《未使用タオル》を募集しています。ご協力をお願いします。

職員紹介 『6年目！これからも頑張ります』

はじめまして！柳川真広（やながわまさひろ）と申します。広島で生まれましたが、山梨、福岡、千葉、北海道、神奈川、埼玉と移り住み、今は三宅島でお世話になっています。

担当している業務としては主に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の利用に関する相談受付や、役場などの手続きや金銭管理、書類保管にご心配をお持ちの方のサポートをしています。

休日は散策やランニング、読書やインターネット配信の映画を視聴したりなどして過ごしています。週末天気がいい時は外を回り自然のエネルギーを貰い、月曜日に臨むようにしています！実際は寒くて出不精な日が続いていますが風が穏やかになってきたところで再開したいところです…！

平成25年の4月に三宅島に来てから5年が経ち、来月には6年目になります。前年よりも精進し一層お役に立てるように考えて動いていきたいと思っております。今後ご指導いただけますようよろしくお願い致します！



バスケット中！

地権事業通信

「終活」についてご存知ですか？

「終活」というワードですが、最近テレビや新聞、雑誌など様々なメディアで目にすることもありご存知の方もいらっしゃると思います。終活とは週刊朝日が造った平成21年に葬儀や墓など人生のエンディングを考え事前準備することを指す言葉です。

文字通りの意味を考えるなら「終わる活動」すなわち「死」への準備のように聞こえますが、今をよりよく生きるための活動としてとらえて活動される方が増えています。

これからどう生きるか考える「終活」

国内総世帯数の約1/3が単身世帯の現代社会、少子高齢化の進行による働く人の年齢構成の変化や意識の多様化、国際化の進展や産業構造によりその人その人の暮らし方は個性化しています。

その人その人の暮らし方に合った将来の人生設計や目標を考えるには、その人その人自身の生活状況の分析が必要になってきます。

好きなことは何か、どんなことをしたいか、知人や家族にどんな思いを残したいか、思いつくことを書き出し自己分析することで、これからどんな人生を過ごしたいのかを考えるきっかけに繋がります。

終活の具体的な内容については次号にて紹介させていただきます！

手続きや福祉サービスについてご質問やご相談などございましたら、三宅島社協 ☎ 8-5883 までご連絡ください！



～ 自分の今を知る簡易チェックシート ～

- 趣味と言えるものがある。
- ボランティアや趣味の活動に参加している。
- 身近に頼ることができる家族や友人がいる。
- 料理や洗濯は自分で出来る。
- バランスのとれた適切な量の食事を摂っている。
- 定期的に病院に通っている。
- 1ヶ月分の収入と生活にかかる支出を知っている。
- 悪徳商法について知っている。
- いざという時の連絡先や手続きについて知っている。

三宅島社協非常勤職員募集

三宅島社協では下記の通り、非常勤職員を募集しています。詳細につきましては、三宅島社協事務局 ☎ 5-7051 (担当：齋藤) までお問い合わせください。

地域福祉権利擁護事業生活支援員

【主な業務】福祉サービス利用援助や日常的な金銭管理の支援、手続き支援など

【勤務時間】月～金のうち2時間程

(登録型勤務、曜日時間は応相談)

【資格要件】普通自免許

【待遇】時給1,000円 (交通費別途支給)

訪問介護員

【主な業務】清掃・調理・入浴介助等訪問支援

【勤務時間】8時30分～17時30分までの間

(曜日時間は応相談)

【資格要件】ホームヘルパー2級以上
普通自免許

【待遇】時給1,250円



保険のご案内

社協では、以下の保険加入手続きの窓口業務を行っております。各保険のご案内パンフレットや加入書類は社協事務局内にございます。お申込み等につきましては、社協までお問合せください。

『ボランティア保険』

国内におけるボランティア活動中の偶然の事故により、ボランティア自身が被ったケガとボランティア自身が第三者の身体・財物に損害を与えたことによる法律上の損害賠償責任を補償する保険です。

《対象となるボランティア活動》

- ① 所属するボランティア活動団体等の会則に則り、企画立案された活動
- ② 社会福祉協議会の委嘱を受けた、または社会福祉協議会に届け出た活動

上記のいずれかに該当する活動で、次のア～ウまでのすべてに該当する活動(個人での活動を含む)

- ア 日本国内での活動
- イ 無償の活動(交通費、食事代など費用弁償程度の支給は無償とみなす)
- ウ 個人の自発的な意思により他人や社会に貢献することを目的とする活動

※ボランティア保険は年度ごとに加入が必要となります。平成 29 年度にボランティア保険に加入されていた方も改めて平成 30 年度(補償期間:平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)の保険加入手続きが必要となります。

三宅社協では、島内でボランティア活動を希望される方、活動している方に対し、ボランティア保険の保険料(A プラン)の助成事業を行っております。ボランティア活動等に関するお問い合わせは、お気軽にご相談ください。

『行事保険・行事保険(当日参加型)』

国内において、福祉活動やボランティア活動などを目的として、または市民活動の一環として、非営利の団体が主催する行事参加中の以下の 2 つの補償を行うものです。

- ① 行事参加者が偶然な事故でケガをした場合の傷害補償
- ② 行事主催者が行事参加者など他人の身体や財物に損害を与え、行事主催者が法律上の賠償責任を負った場合の賠償責任補償

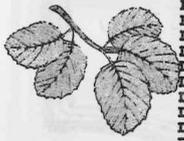
※行事保険(当日参加型)は、気軽に当日参加できる行事(事前に人数の確定が難しい行事)に対応

☆主な違い☆	行事保険	行事保険(当日参加対応型)
加入者名簿の備付	➤ 保険加入時に、加入者名簿(氏名・住所・電話番号)の準備・提出が必要	➤ 保険加入時に加入者名簿は不要 ➤ 行事当日に加入者名簿(氏名フルネームのみ)の作成・保管が必要
往復途上の補償	➤ 当該参加者に対する傷害補償あり	➤ 参加者未確定のため傷害補償なし
対象行事	➤ 1 日行事(3 区分)、宿泊行事も対象	➤ 1 日行事(a 区分のみ)対象 ➤ 宿泊行事は対象外
加入最低人数	➤ 5 名以上	➤ 5 名以上 ※申込時は参加定員または参加想定人数

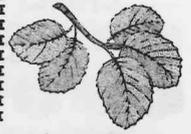
《保険加入できる団体》 ①ボランティア団体・市民活動団体、②社会福祉法人、③医療法人・学校法人・宗教法人④社団法人・財団法人、⑤NPO法人(特定非営利活動法人)、⑥自助団体、⑦自治会・町内会・子ども会、⑧地方公共団体、⑨その他、上記に類する団体

保険契約者:東京都社会福祉協議会

保険代理店:有限会社 東京福祉企画(03-3268-0910) <http://www.Tokyo-fk.com>



地域の掲示板



“風のカフェ”（認知症等介護者のためのカフェ）

インフルエンザが流行していますが皆さん体調管理には十分に気をつけましょう。

2月といえば初午祭！今年はありがたいことに、ちょうど阿古地区の初午祭の日と風のカフェの開設日が同じ日になったことで、風の家にも獅子にお越しいただくことができました。

荘厳で威勢のよい獅子の舞は、圧倒されるほどの迫力とともにとてもありがたく舞って頂きました。

風のカフェにいた皆さんも頭をかじって頂いたり、たくさんの笑顔とともにとても素晴らしい時間をいただきました。阿古青年団の皆さんには、心から感謝申し上げます。

普段はご自宅で介護に向かわれている方も、ひととき介護を離れて一緒に楽しい時間を作ることが出来ました。

また、ご利用される方のお話では、介護という環境に伴う「匂い」についてのお話がされました。その「匂い」はご自身を感じられているものではなく、「自分ではわからないけど、もしかしたら訪ねてきてくれる人たちは匂いを感じてるのではないか？」という不安の声でした。

『風のカフェ』では、ご自宅で介護に向き合われている方や、これまで介護をご経験された方々のお越しをお待ちしています。また、介護を受けられているご家族の方も、ご一緒に参加していただけます。

どうぞ一緒に楽しい時間を過ごしましょう。



次回開催 3月3日(土) 9:00 ~ 11:30 (毎月1回：土曜日)次々回となる4月については決定次第 IP 告

知端末にてご案内させていただきます。開設日は、村役場にご協力いただき IP 告知端末でもご案内頂いております。そちらもご覧ください。

問合せ：5-1470 (みやけじま風の家) / 5-0904 (三宅村役場福祉健康課 福祉係)

坪田地区ビーチクリーンクラブからお知らせ

～ 長太郎池ビーチクリーンのご案内 ～

主 催：坪田地区ビーチクリーンクラブ

日 時：平成30年3月25日(日)

午前8時30分から1時間程度

集合場所：長太郎池前

※ 雨天の場合は中止です。

※ 軍手、ゴミ袋はクラブで用意いたします。



マイ・ストーリー

あなただけの物語、聞かせてください

第5回
上松彦三郎さん
の物語



坪田在住の上松さん

無学であっても学ぶ心を忘れないことが大切。

大正14年神着で生まれた上松彦三郎さん92歳。

子どもの頃は人一倍負けん気の強い子どもだった。20歳の時に軍隊に入隊した。新島の隊に入隊したが、毎日ビンタを張られて、つらい日々だった。ある日、牛の世話をしていた上等兵の具合が悪くなり、誰か牛の搾乳や牛の世話ができるものがないかと言われ、志願した。上松さんは隊に入隊する前に島で牛の世話をしていたので、そんなことは朝飯前だった。牛のおかげで、毎日のビンタから解放された。終戦となり、新島から三宅島に帰ってきて村営牧場で働くこととなる。

車の免許を持っていなかったの、毎日1時間半から2時間かけて雄山を登ったという。「山に登るのが嫌な日もあったよ。」と笑って話してくれた。牧場の事ならなんでもわかり、人からは「牧場の神様」と呼ばれていた。牛が牧場で困ったら…人が牧場で困ったら…上松さんが行けばどんなことでも解決できた。上松さんの一声で100頭の牛が飛んできたという。牧場以外の牛が逃げても上松さんのところに連絡がきた。上松さんにとって逃げた牛を捕まえることなんてとても簡単な事だったからだ。そんな牧場の神様でも牛に恐怖を感じたことがあるという。村営牧場にオーストラリアから牛を50頭買った時に、オーストラリアの牛が3メートルの柵をピョンと飛び越えるのを見て、とても怖かったと語る。牧場の神様でも牛への恐怖はあったようだ。危険なことになる前に牛の顔を見れば、わかるという。上松さんでなければわからないだろう。「どんな仕事でも半端に仕事しちゃだめだよ。」「どんな事でも精一杯やらなければ意味がないんだ。」今までの牧場への、牛への情熱が感じられる言葉だ。現在の日課はみんなが気持ちよく道を歩けるように、自分の家へ来るお客さんが足を滑らせないように、家の周りを掃除することだという。家の周りには、落ち葉ひとつ落ちていなかった。まっすぐ語ってくれる、その瞳の奥に、「情熱」という火が燃えているように思えました。

命と向き合っ、自然と共に生きてきた情熱あふれる彦さんのストーリーでした！ご自身の事を「無学」だとおっしゃっていましたが、「学ぶ心」を持っている人は「無学」ではないと思います。私も「学ぶ心」をいつまでも大切にしたいと思いました。大切な事、忘れないようにします。彦三郎さん、急な取材のお願いを快く受けて頂き本当にありがとうございました！情熱あふれるストーリーと楽しい取材の時間、本当にありがとうございました！



牧場で働いていた頃の上松さん

編集後記

もうすぐひな祭りです。ひな人形を早くしまわれないとお嫁に行き遅れる：そんな言葉を聞いたのは遠い昔の記憶です（笑）

女の子なら小さい頃「パパのお嫁さんになる」というのは定説ですが、私は未だに父のお嫁さんを見ています。父のようにイケメンで、ギャグのセンスがあり、優しい人：どこかにいますかね。いればすぐにでもお嫁に行きたいです。いつまでも父のそばから離れられない私です。

